

## 小学校教育におけるマンガの活用と応用について

### 【概要】

現代の日本において、マンガは日本を代表するポップカルチャーの一つであり、人気は国内のみならず、海外においても若い世代を中心に人気を集めている。文部科学省の教育白書(2000年)においては、マンガは「日本の文化」であり「重要な現代表現」として、公式に位置づけられている。また、家島(2007)はマンガの人気を要因として、4点の「マンガの特殊性」を挙げている。このような動向をうけて、尾濱ら(2017)は、「マンガ」を学習の教材として使おうとすることは当然あってしかるべきであると示した。事実、現代の義務教育で用いられている文部科学検定済教科書に、様々なマンガのキャラクターが登場している(尾濱他,2017)。

そこで本研究では、上記で示した「マンガ」の背景を踏まえて、まず第2章でマンガを用いた教材の定義づけを行い、それらの利点・欠点を、先行研究を取り上げながら整理する。そして、第3章で現代の小学生におけるマンガを含めた読書活動の実態について、データを用いて整理する。第4章では、元小学校教員と小学校図書館の司書の2名に対して、マンガを用いた教材の活用方法と応用方法、利点・欠点、小学校図書館の利用状況などについての、インタビュー調査の概要とその結果を整理する。第5章では2名の小学校教員へのインタビュー調査を踏まえ、仮説や先行研究との比較分析を行い、現在の小学校教育における「マンガ」の在り方、小学校図書館の実情を明らかにする。第6章で、インタビュー調査結果の重要ポイントを明らかにする。

マンガを用いた学習教材を、「マンガ教材」と「学習マンガ」の2つに分類し、その2つの定義づけを行う。まず「マンガ教材」とは、マンガの挿絵や表現形式(コマ、吹き出し、漫画符号)が用いられた教科書やドリルのことである。次に「学習マンガ」とは、読者に対して知識を分かりやすく伝え、学習意欲と正しい学習

内容を提供するマンガのことである。

新潟県の元教員と小学校図書館の司書の2名へのインタビュー調査の結果より、以下の4点が明らかとなった。

1点目は、「マンガ教材」と「学習マンガ」の利点において、概ね先行研究、仮説と類似した学習効果が期待された。欠点において、「マンガ」を取り入れた授業方法の再検討や、読者による学習マンガの読み方に関する実証的・専門的な実験の必要性が示された。

2点目は、「マンガ教材」の応用方法について、日本の歴史を学び始める小学校6年生に対して、社会の授業で歴史マンガを取り扱うことは有効的であることが明らかになった。

3点目は、「マンガ教材」の活用方法として、マンガのキャラクターがそれほど大きな影響力を持っていないという見解が得られた。それには、子どものキャラクターの嗜好や関わり度合い(西岡,2016)に個人差があることが要因として挙げられ、「マンガのキャラクター」に関する専門的な実験をする必要性が示された。

4点目は、小学校図書館における現状として、小学校図書館の図書購入費用が不十分であるため、学習マンガや娯楽マンガの購入に消極的な姿勢がみられた。そのため、自治体に対して図書購入費用の重要性を伝える必要があることが明らかになった。

### 【参考文献】

- ・ 家島明彦(2007). 心理学におけるマンガに関する研究の外観と展望. 京都大学大学院教育研究科紀要. 53. 166-180
- ・ 尾濱邦子他(2017). 学習内容の理解に及ぼす学習マンガの効果—小学校第5学年の説明文を題材として—. 別府大学短期大学部紀要. 36. 21-29
- ・ 西岡直実(2016). キャラクターの心理的・社会的活用の可能性について. 子ども学. 12. 10-15